

PM（プロジェクトマネージャー）紹介



日本医業経営コンサルタント協会認定 医業経営コンサルタント
ラジエンスウェア株式会社
代表取締役 **中嶋 吉男**

先生や看護師さんは多忙の中、患者さんに対応しています。業務改善は進んでいますが、人件費の高騰や人手不足はますます深刻化しています。そこで、私はAIロボットの活用を研究し、埼玉県医療イノベーション事業の一環として、医療機関やロボット開発企業との連携で、製品開発に取り組みました。更に医療機器として採用されるよう発展させる計画です。

医療現場からの声



埼玉医科大学 国際医療センター
脳血管内治療科
教授 **神山 信也**

脳卒中は早い段階でリハビリ介入できれば効果があります。ロボットが活用できれば患者さんの早期回復、医療スタッフの負担軽減につながると期待しています。



埼玉医科大学 国際医療センター
運動呼吸器リハビリテーション科
教授 **高橋 秀寿**

看護介入時間はわずか1~2時間程度で、結果、昼夜逆転現象が生じ、機能回復に大きな障害となっています。ロボット導入による効果に期待しています。

<開発体制>

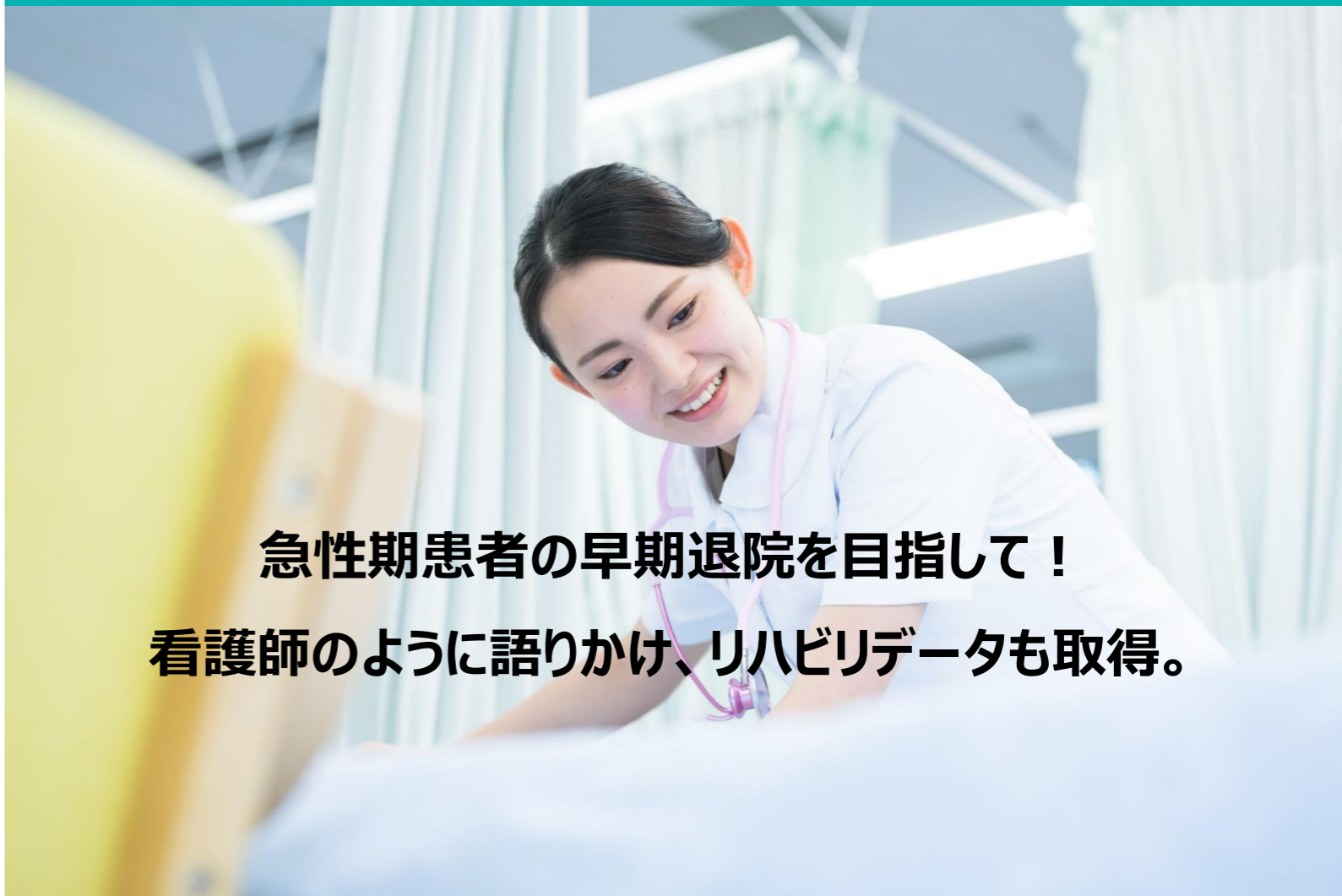


医療機関、IT企業、AIロボット開発企業の連携により製品化。

<お問い合わせ先>

RAD ラジエンスウェア株式会社
RADIANCE WARE

〒369-0313 埼玉県児玉郡上里町堤696-7
TEL 0495-35-0081 FAX 0495-35-0075
<https://www.radianceware.co.jp/>
E-Mail : radiance@radianceware.co.jp



**急性期患者の早期退院を目指して！
看護師のように語りかけ、リハビリデータも取得。**



MAIR-unibo
MEDICAL ASSIST INTELLIGENCE ROBOT

急性期患者と対話し、リハビリを円滑化させるAIロボット、誕生。



看護・リハビリ支援ロボット「MAIR」の特徴



学習する

患者さんの趣味や好みを事前に「学習」。ネットから興味ある情報やニュース、音楽などを取得し、情報発信します。



コミュニケーションする

患者さんにやさしく語りかけ、簡単な会話やゲームなどを行うことにより、昼夜逆転を防止し、早期回復につなげます。



リハビリのデータを記録する

患者さんとロボットのやり取りをデータ収集し、評価分析することで、最適なリハビリテーションプログラムを作成します。



こんな場面で活用



救急搬送

脳卒中などの急性期患者さんが病院に運ばれ、手術や処置を受けます。



ICU

ICUの患者さんに、ロボットが語りかけたり、会話やゲームを楽しませることで、昼夜逆転を防止。早期回復につなげます。



リハビリ（重度）

寝たきりの重度な患者さんにロボットが好みの音楽をかけたり、ニュースを発信、会話をしながら、機能回復を促進します。



一般病棟

看護師のようにロボットが患者さんのコミュニケーションをサポート。趣味趣向を把握し、友だち感覚で接します。



自宅療養

会話だけではなく、健康状態や投薬などについてもロボットがしっかり管理。病院スタッフがそこにいるようです。



リハビリ（軽度）

精神状態短時間検査をロボットが代行し、質問～回答結果の保存、データ化を進めます。正確なデータ測定が可能です

優れた機能・システム



ユニロボット社が独自開発した人工知能エンジンを搭載

院内サーバにより患者さん個別のリハビリ情報等を管理

リハビリ計画～実施のデータ分析・活用

